

## フィールドワーク～現場での学びを深める～

話題提供者:長谷川 万由美(宇都宮大学教育学部教授)

日時:平成27年12月10日(木)15:00～16:30

会場:ラーニング・コモンズ4

### Udai教育セミナーの趣旨・目的

宇都宮大学は、主体的に挑戦し(Challenge)、自らを変え(Change)、社会に貢献(Contribution)する人材(3C人材)の養成を目標としています。新たな地域社会の変革を担う3C人材の養成には、従来の大学教育が担ってきた知識の獲得に加え、自ら課題を設定して主体的に学ぶアクティブ・ラーニングによる能動的学修の展開が効果的と考えられます。本学には、これまで多くの教員の不断の努力により、授業における多様な工夫と実践が蓄積されてきました。

Udai教育セミナーは、その成果と課題の共有を目的として、定期的を開催しています。第9回は、教育学部総合人間形成の長谷川万由美教授から、基盤教育科目「災害復興学入門」「ボランティアという生き方」や教育学部の「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」におけるフィールドワーク(東日本大震災の被災地)での実践を中心に報告いただきました。現場での学びをより効果的なものにするためには、どのような工夫や配慮が必要となるのでしょうか？

### 実践の背景

長谷川先生は、生活保護ケースワーカーとしての経験に基づき、ゼミ合宿で、ビッグイシューの販売、スープの会夜回り、山谷炊き出しボランティアなど

東京でのホームレス支援に関わる活動を続けてこられました。ハードな内容ですが、宇都宮では中々できない体験を共有することを通して、学生同士の学びあったり、交流深めたりする貴重な機会になっているということでした。



### 被災地のボランティアを経て

東日本大震災以後、学内の学生ボランティア担当として、主に宮城県亘理町で活動を行ってこられました。最近では学生の積極性が薄れていると感じることもあるそうです。震災当時大学生だった学生が卒業してしまい、今年の新入生は震災当時中学二年生だったこともあり、大学内での思いの継承が難しいと感じることがあるそうです。学生は現地に行くことで大学内で関心が薄れていることに気づき、支援活動の意義を感じるようです。

## フィールドワークのポイント

フィールドワークの第一義的意味は、現場で衝撃的な体験をすることではないかと思います。例えば震災直後から継続して現地に入っている長谷川先生は、当時と比べれば、瓦礫がなくなり、きれいに整地されて何もなくなったと感じますが、同じものを見ても、初めて現地に行った学生は、家の礎石を見て、「ここに家があったんだ」という事実を肌で感じて、衝撃を受けるそうです。同じ対象と出会っても、個々人で受ける衝撃の大きさや種類は異なります。従って、現場での受けた体験を「意味づけ」するための振り返りが重要となるのですが、実際には、休日を利用した不定期開講の授業にならざるを得ず、振り返りが充分に行えていないこと、事前・事後の学習の重要性についても理解しているものの、学生の時間調整が困難であることが課題だそうです。

10年後に露呈したであろう課題が先送りされただけという観点で捉え、現場で受けた衝撃をどう活かすかという視点で関わっていくことが重要です。



先に述べたように、授業形態の関係上、この授業内で振り返りを行うということは課題として残っていますが、振り返りの位置づけ方次第で活かされていると考えることもできるでしょう。学生が、就職活動などで大学生活全体を振り返り、自分の言葉でその経験や意義を「語る」ことで、学生個人の中で意義づけられるのではないのでしょうか。先生は、「他の授業の軒先を借りている」と表現しましたが、この授業での経験は、他の授業での学修を踏まえて、より幅広い視点から、学生は別の形で振り返ることになります。このように、フィールドワークの意義は、一つ授業の中だけでは完結せず、他の領域の学修を経て振り返ることもあると考えられます。また、卒業後、10～20年経って、この授業の意義に気づくこともあるでしょう。授業内だけに閉じず、ここでの経験が今後どこかの場面で活かされれば良いと先生は言います。宇都宮大学の学生生活のターニングポイントとなる学修が、フィールドワークでの体験が生み出されていると言えるのではないのでしょうか。

### (被災地)フィールドワークの課題

- ・準備が難しい...とくに復興過程で十分にかかわることができない
- ・行ってみたら...
- ・振り返りが不十分
- ・事前学習も難しい
- ・学生の中での経験値の差と活動の「理想」の継承
- ・学生が集まらない(不定時授業、欠席)
- ・評価が難しい
- ・個人的負担の限界
- ・財政的・組織的バックアップの欠如

## 振り返りの重要性

被災地を対象としているため、時間の経過に伴う変化もあり、不安定な題材を扱う難しさがあります。しかし、被災地で起こっている問題は、いずれ5年後、